Panasonic®

取扱説明書

電動ハイブリッド自転車

品 番　BE-EHB67

（上手に使って上手に節電）

※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

このたびは、電動ハイブリッド自転車「LYREBIRD EB」をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**特に「安全上のご注意」（4～8ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。**
お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
製品を他の人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡し願います。
お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

お願い

**この自転車は、散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。
新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。**

保証書別添付

- **保証書**は、**「お買い上げ日、販売店名」**などの、記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。（記入がない場合は、無効となります。）
- 必ず、販売店に**防犯登録**をしてもらってください。（法律で義務付けられています。）

自転車のルールを守って、安全走行
●止まって確認、らくらく発進
●ライトをつけて、らくらく走行

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

ナショナル自転車工業株式会社（およびその関係会社）は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

修理・取扱い・手入れなどはまず、お買い上げの販売店へご相談ください。

転居や贈答品でお困りの場合は、下記の相談窓口へ

最新のお客様ご相談窓口はホームページをご覧ください。

ナショナル自転車工業株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

NYT786 N0305-5096

〈電動ハイブリッド自転車とは〉

『LYREBIRD EB』は、電動補助システムが付いた電動ハイブリッド自転車です。
電動ハイブリッド自転車は、普通の自転車と異なった部分があります。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく、安全、快適にお乗りください。

◆『LYREBIRD EB』の特長

① **免許証が不要です。**
『LYREBIRD EB』は、運転免許証無しで乗ることができます。

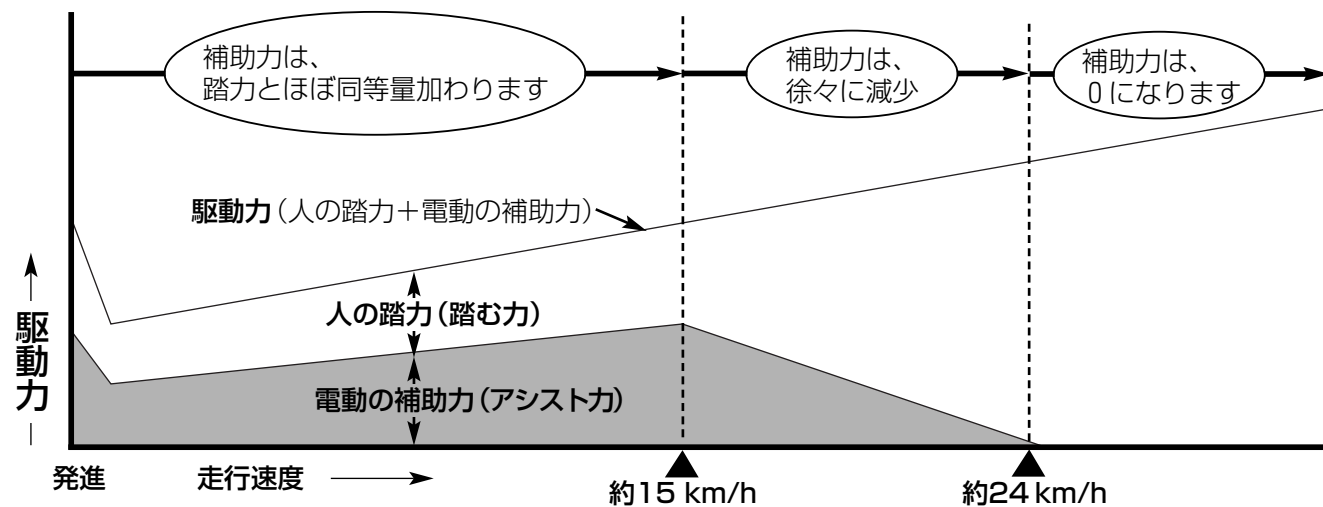
② **電動補助力の働きで楽に乗れます。**
上り坂や向い風、荷物を積んだ時などに電動補助力の働きで楽に走れます。
☆ 乗る人の踏力、道路の状況、積載荷物の重量等の条件により楽になる度合は個人差があります。

③ **バッテリーが切れても、普通の自転車として走行できます。**
乗りやすく、こぎやすい、人にやさしい設計がなされています。

④ **アシストモード切替機能が付いています。**
ペダルを踏む力や走行する道路の状況に応じて、モーターの補助力を選ぶことができます。

⑤ **リチウムイオンバッテリーを使用しています。**
メモリー効果※の心配が無く、非常に軽量です。また、安全性に優れたマンガンタイプを使用しています。
※メモリー効果とは、継ぎ足し充電を何度も繰り返すと、見かけ上バッテリー容量が低下すること。

●電動補助力（アシスト力）の働きと大きさの変化

ペダルを踏むと瞬時に、補助力が働き、自転車の約半分の踏力で走行できます。
電動補助力の大きさと補助速度範囲は、変速位置、走行速度により変化します。

手元スイッチのアシスト切替ボタンが「標準」モードの時は、補助力が「強」モードより弱くなります。
※走行距離の目安は業界の基準で測定しています。詳しくは、23ページをご覧ください。

●次のようなときはアシスト力が働きません。

○時速が24km/h以上のとき。
変速段数によっては、24 km/h以下でアシスト力が働かない場合があります。
○ペダルを踏む力が弱いとき。
ペダルの回転を止めているとき、自転車が停止しているときもアシスト力は働きません。
○バッテリー残量がなくなったとき。
バッテリーの残量が少なくなると、残量表示ランプが早く点滅します。

もくじ

はじめに

充電のしかた

乗るまえに

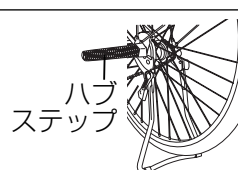
乗りかた

乗ったあと

必要なとき

安全上のご注意(1) 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

表示	内容
⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容を、説明しています。

絵表示	内容
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。
	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

本体

⚠警告

■サドルやハンドルは「引上げ限界線」が見える状態で乗らない

サドルやハンドルの折れにより、転倒や衝突のおそれがあります。

■改造や分解、また指定以外の注油はしない

分解禁止

部品の破損や、ブレーキが効かなくなって転倒や衝突のおそれがあります。

■ハブステップなどの突出物を装着しない

歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。

■調整後の締め付けを確認せずに乗らない(車輪の脱着やサドル・バッテリーライトなど)

車輪などが、外れて転倒のおそれがあります。

バッテリー(電池)

⚠危険

■火中に投げ入れたり加熱しない

■分解や改造はしない

■他の機器に使用しない

■(+)と(−)を金属等で、接触させない

■充電には、専用の充電器を使用する

液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

⚠警告

■水を入れたり、水中に投下しない

端子部から水を入れるとショートして、発熱の原因に、また、水中に投下すると電池機能を失い、使えなくなります。

■傷ついたまま使用しない

ケースなど、破損したまま使用すると漏液や発熱の原因になります。
●お買い上げの販売店で点検をうけてください。

充電器

⚠危険

■分解や改造はしない

■衝撃を与えたり、落下や水濡れをさせない

■専用電池以外の充電には、使用しない

発熱、発火、電池の液漏れ、感電のおそれがあります。

発熱、発火、感電のおそれがあります。

⚠警告

■電源コードや電源プラグを破損するようなことはしない(傷つけたり、加工したり、熱機具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない)

傷んだまま使用すると、感電・ショート・発火の原因になります。
●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■幼児やペットが触れる所に放置しない

感電・けがの原因になります。

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

感電のおそれがあります。

■充電端子や電源プラグのほこり等は定期的にとる

ほこりがたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
●電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

⚠注意

■充電中は長時間、皮膚の同じ場所で触れない

充電中は、40〜60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。

■充電器は不安定な場所に設置しない

コードが引っぱられると故障や、発火、感電のおそれがあります。
●平坦な場所にしっかり設置してください。

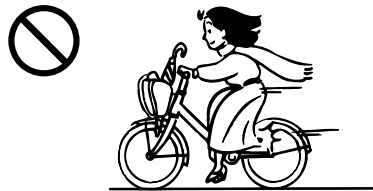
■充電器にカバーをしたり、上に物を置かない

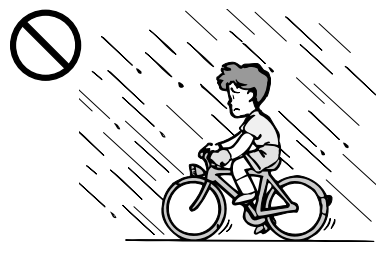
内部が発熱し、発火のおそれがあります。

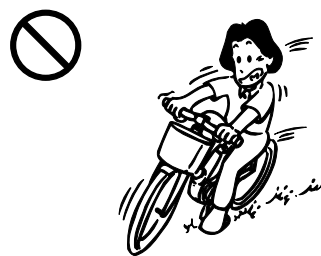
安全上のご注意（2） 必ずお守りください

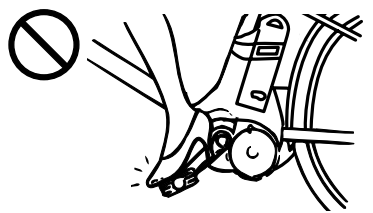
けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために、交通ルールを守りましょう。

こんな乗り方は、やめましょう！

■ 巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない
（長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど）

車輪やギヤに巻き込まれ、転倒のおそれがあります。

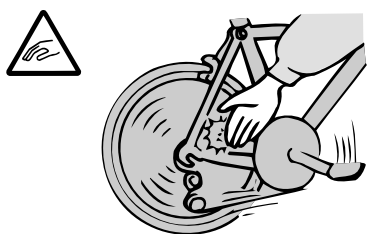
■ 雨・風・雪のひどいときは乗らない

バランスを崩し、転倒のおそれがあります。

■ カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒するおそれがあります。

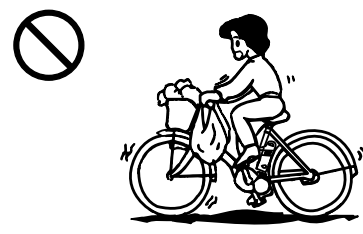
■ 滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

足がペダルから外れ、転倒のおそれがあります。

■ 運動機能が低下するものを摂取したときは、乗らない
（アルコールや、かぜ薬など）

意識が薄れ、衝突などのおそれがあります。

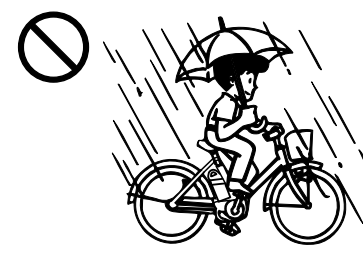
■ 回転物に手を触れない
（ギヤ・車輪・チェーンなど）

手を巻き込まれるおそれがあります。

こんな走り方は、やめましょう！

■ 手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない

荷物やひもが、車輪に巻き込まれたり、バランスを崩すおそれがあります。

■ 滑りやすいところでは乗らない
（積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど）

スリップして、転倒のおそれがあります。
●降りて、押して歩いてください。

■ 合図以外は、ハンドルから手を離さない

バランスがとりにくく、転倒のおそれがあります。

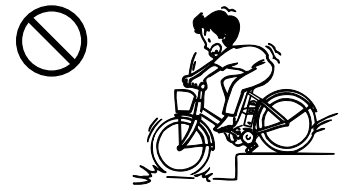
道を走るときに必要なルールです。 まず、これだけは覚えておきましょう。

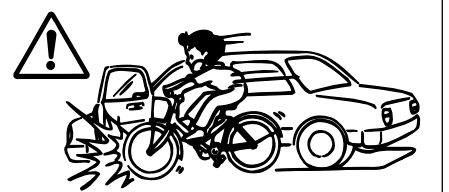
■ 走行以外に使わない
（踏み台代わりなど）

転倒するおそれがあります。

■ スポークの間に固形物（ボールなど）を入れて走らない

車輪に巻き込まれて転倒のおそれがあります。

■ 凹凸の激しいところを走らない
（歩道の段差や、溝など）

フレームや車輪の損傷や転倒のおそれがあります。
●降りて、押して歩いてください。

■ 車の横を走るときは、注意する

駐車や停車中の車のドアが急に開いたり、車の陰から人や動物が、出てくることがあります
●安全を確認し、走行してください。

■ 夜間や視界の悪いときは、無灯火で乗らない

衝突や転倒するおそれがあります。
●ランプがつかないときは、押して歩いてください。
無灯火での乗車は、法律違反になります。

安全上のご注意(3) 必ずお守りください

■乗るまえに

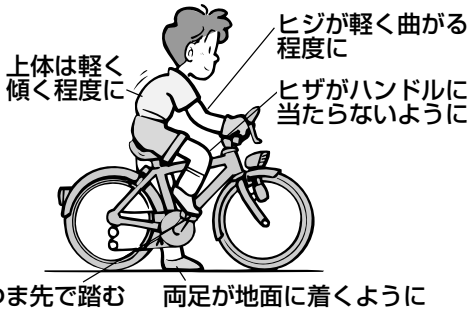
まず体に合わせる

●図のように販売店で調整してもらう

●操作して確認する

①円滑なペダリングができる。

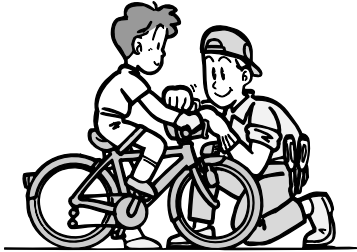
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。

③ハンドル操作が容易にできる。

必ず点検を

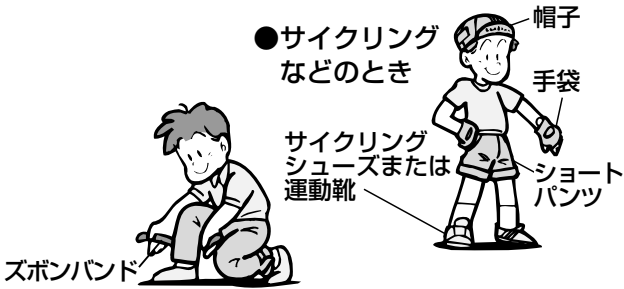
●必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。

●未組立及び未調整の自転車は使用しないでください。

わからないときは

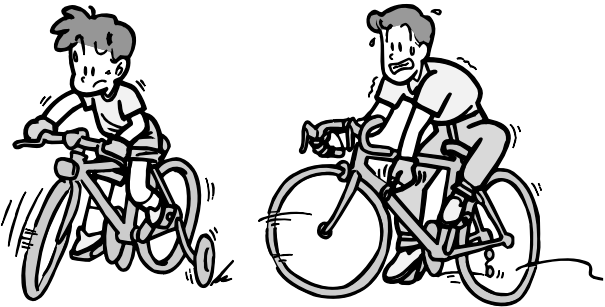
●販売店に相談してください。

正しい服装で(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)

●チェーンやギヤがむきだしの自転車に乗るときは、必ずズボンのすそをズボンバンドで止める。

ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへのひっかかり等を防止するため。

乗る練習は

●練習する場所は

空地や公園など安全な場所で.

(よく練習してから一般道路でお乗りください)

■乗ったあとは

●駐輪する時は、他の人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。

●盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。

●自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。

各部のなまえ(1)

サドル

シートポスト [サスペンション]

カムレバー [クィックレリーズ式]

リヤキャリヤ

リフレクタ(テールランプ)

後ブレーキ [Vブレーキ]

ドレスガード

スポークプロテクタ

フリーホイール

リヤディレーラ

スタンド

発電ランプ

どろよけ〈前・後〉

前ブレーキ [Vブレーキ]

発電ランプスイッチ

スポークリフレクタ〈前・後〉

前ホーク

前ハブ

スポーク

リム

タイヤバルブ

ペダル

ギヤクランク

チェーンケース

リヤディレーラガード

チェーン

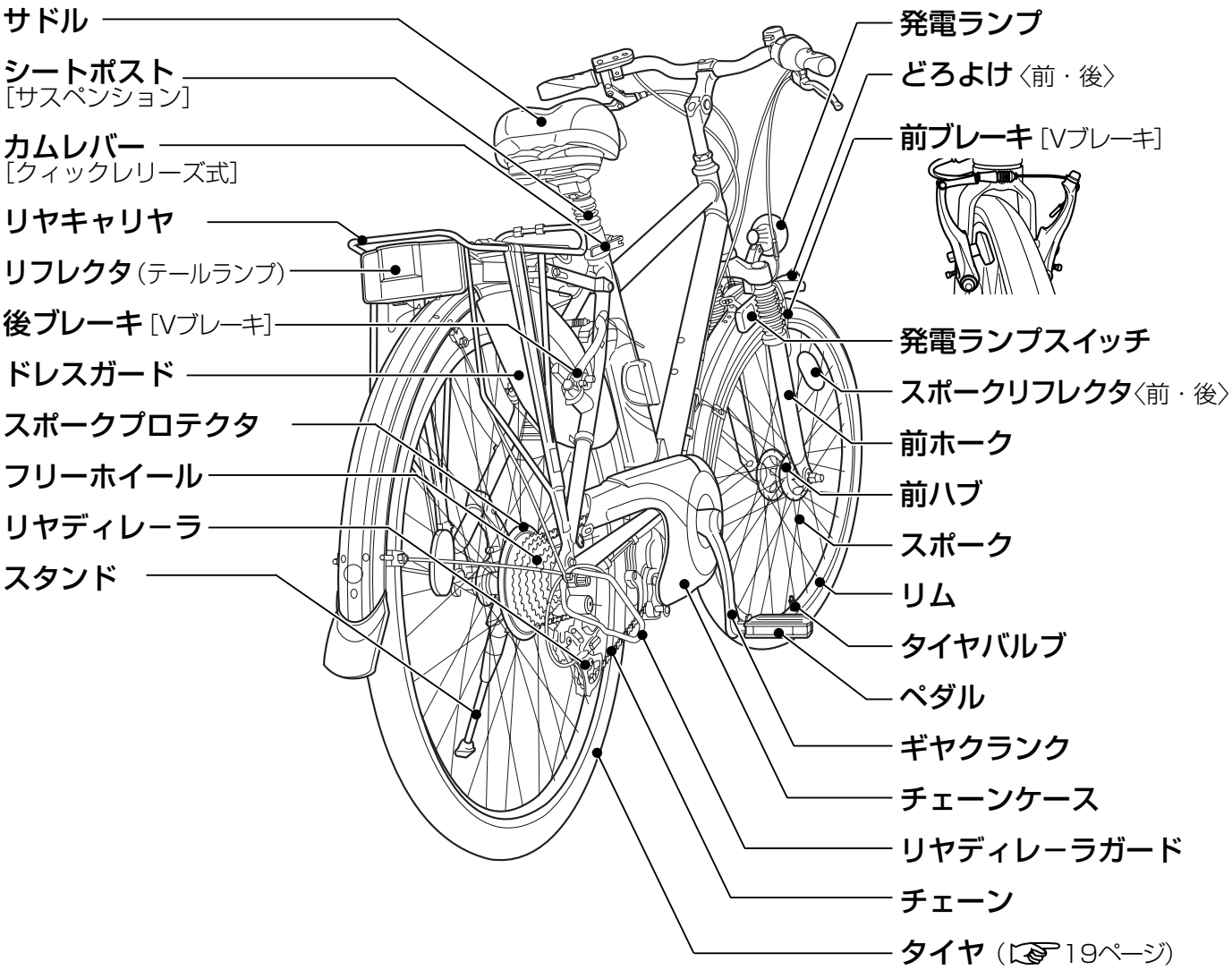
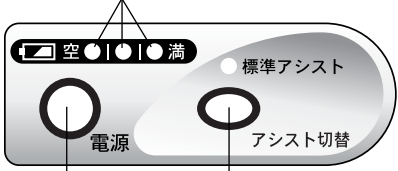
タイヤ (☞19ページ)

■手元スイッチ

残量表示ランプ

空 満

標準アシスト

電源

アシスト切替

電源ボタン

アシスト切替ボタン

■ 付属品

●ワイヤ錠 1本 (シリンダー式)

にぎり(グリップ)

変速機ワイヤ

ハンドルバー

ベル

変速機

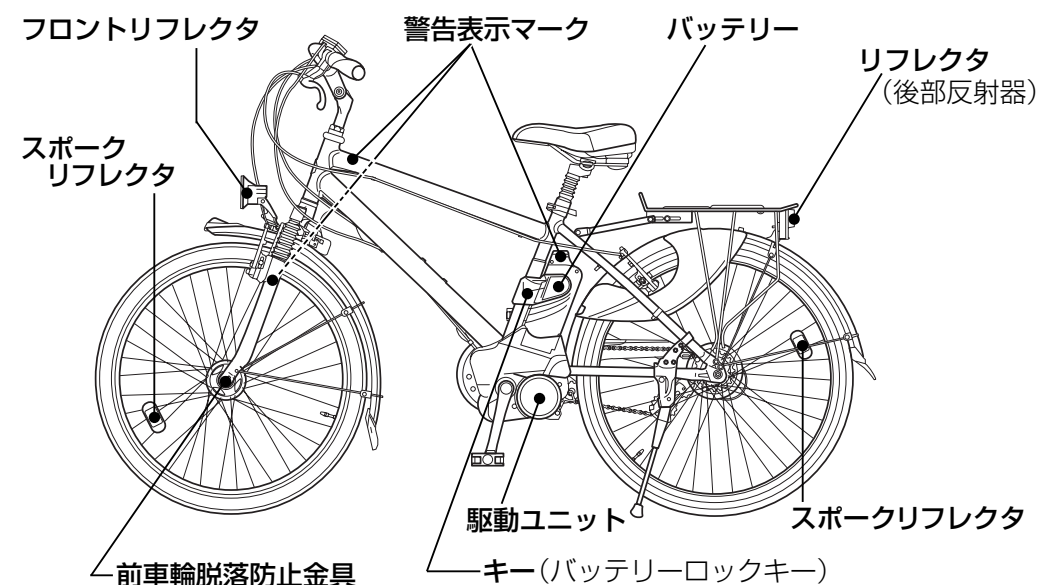
シフトグリップ

前ブレーキレバー

後ブレーキレバー

ブレーキワイヤ

ハンドルステム

各部のなまえ（2）

■警告表示マーク

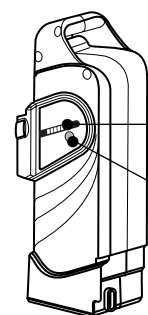
上パイプ上部

⚠警告
破損や転倒の恐れあり
■各部にがたやユルミのあるときは乗らない
■ハンドルやサドルは限界表示より上げて乗らない

バッテリー上部

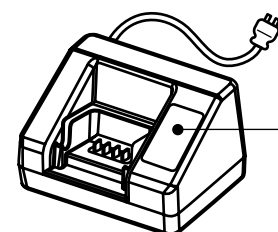
フロントフォーク

⚠警告
ボルト等を外して分解しない
破損や転倒の恐れがあります。

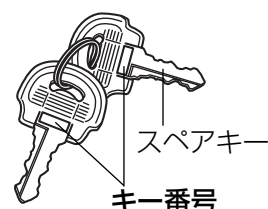
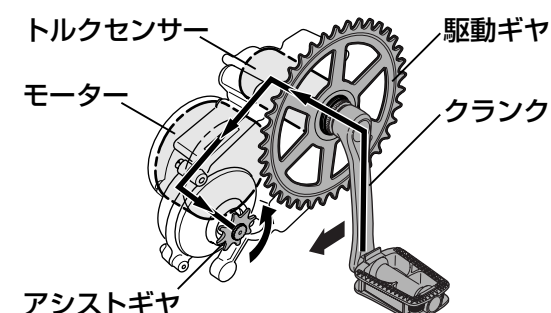
■バッテリー

バッテリー残量表示ランプ
（☞ 22ページ）

残量表示ボタン

●充電のしかた
（☞ 12～13・31ページ）

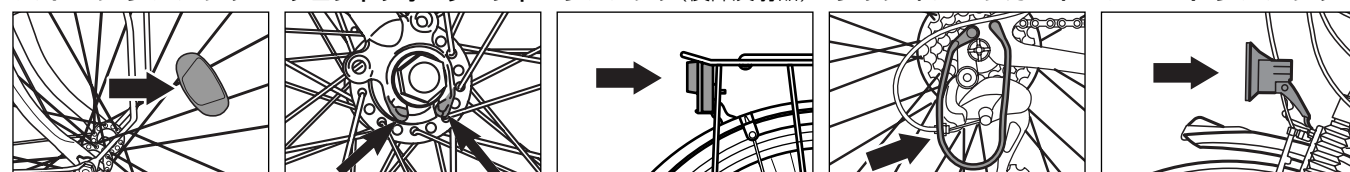
■充電器

■キー（バッテリーロックキー）

お願い

●キーの番号は、控えておいてください。
（保証書のキー番号欄とこの説明書の37ページの記入欄に記入できます。）
キーを紛失されても、番号がわかればスペアキーをお求めいただけます。
販売店にご相談ください。
※ロック時もキーは抜けますので、走行・駐輪する際は、抜いて保管してください。

■駆動ユニット

ペダルの踏力を、クランクを通じてトルクセンサーで感知し、最適なアシスト力をモーターからアシストギヤへ伝えることにより、快適なアシスト走行を実現しています。

⚠警告 🚫 **安全装置や警告表示マークは取り外さない**
外したまま使用すると、事故発生の原因になります。

■安全装置

スポークリフレクタ	前車輪脱落防止金具 フロントフォークエンド	リフレクタ(後部反射器)	リヤディレーラガード	フロントリフレクタ
横からの光を反射します	前車輪の脱落を防止します	後からの光を反射します	衝撃によるリヤディレーラの破損を防止します。	前からの光を反射します

※リフレクタが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。

■警告表示マーク

上パイプの上部、バッテリーの上部、フロントフォークの3カ所に貼付しています。

お知らせ

●警告表示マークがはがれたりなくなった場合は、販売店かお客様相談窓口にご相談ください。

■品番マーク

このマークは法律上、自転車として認定されたものです。
取り外さないでください。

（品番マーク）

■基準適合TSマーク

このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるもので、安心して自転車としてご利用頂ける証明です。（工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。保険付きは35ページ参照。）

■車体番号（刻印位置）

防犯登録に必要で、9文字（数字と英字）で表示しています。

●この自転車は（社）自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自転車安全基準

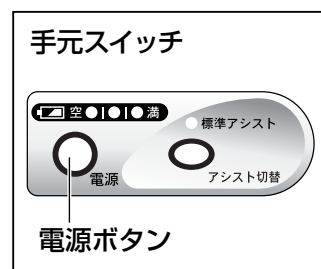
「自転車安全基準」は、（社）自転車協会がJIS（日本工業規格）をベースにDIN（ドイツ規格）など海外の規格や粗悪自転車による自転車事故事例等を踏まえて、消費者の安全第一を考えて定めた基準です。

■BAAマーク

「BAAマーク」は、自転車安全基準に合格した自転車に貼ることができるマークです。
「BAAマーク」は、自転車の立パイプに貼付されています。
※BAA=自転車協会認証—BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

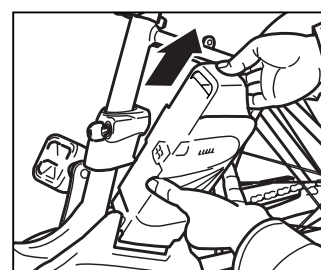
充電しましょう

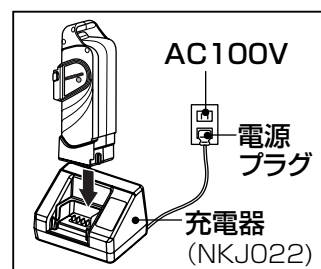
バッテリーは酷暑、酷寒、衝撃を避けるのが上手な使い方です。

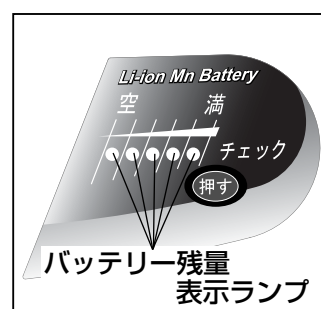
1. 手元スイッチの電源を切る

手元スイッチの電源ボタンを押して電源を切る。
（全ランプ消灯）
※電源を切らないとトラブルの原因になります。

2. バッテリーロックを外す

バッテリーを支え、
バッテリーロックキーを時計方向に回しながら、
バッテリーをゆっくり手前に倒す。

3. バッテリーを引き上げる

両手で支えながら引き上げて外す。

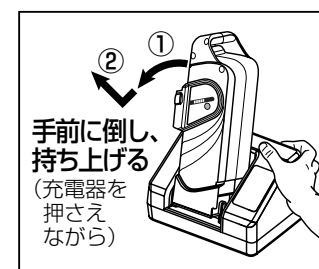
4. バッテリーを充電器にセットする

電源プラグをコンセント（AC100 V）に差込み、
バッテリーを充電器に奥まで押し込む。

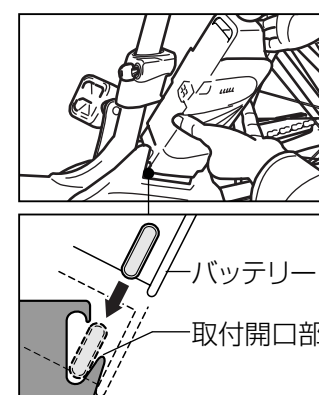
5. 残量表示ランプを確認する

バッテリーの残量表示ランプの点灯（赤色）を確認する。
（充電状態に応じた表示になります。）

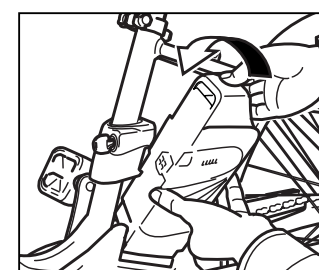
残量表示ランプ点灯（充電中） → 約2.6 時間後 → 残量表示ランプ消灯（充電完了）

（充電時間は、アシストがなくなるまでバッテリーを使用したときの目安です。）

● **充電時間の目安**（気温20 ℃）
85 %充電まで……約1.5 時間
100 %充電まで……約2.6 時間

6. バッテリーを充電器から外す

残量表示ランプの消灯（充電完了）を確認してから、
充電器を押さえながらバッテリーを外した後、
コンセント（AC100 V）から電源プラグを抜く。

7. 自転車の取付開口部に乗せる

取付開口部にバッテリーを乗せる。
（残量表示ランプのある面を手前にする。）

8. バッテリーを起こす

バッテリーを「カチッ」と音がするまで、垂直に起こす。
（バッテリーのカドを支点にして、弧をえがくように起こす。）

お願い

- 装着後、バッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。
- バッテリーを装着後、バッテリーロックキーを外し、保管してください。

お願い 充電するときのポイント。

- 初めて乗る時や1ヵ月以上乗られていない場合は、必ず充電してください。（出荷時は、充電していません。）
- 充電時の周囲気温は、10℃～30℃の場所で充電してください。
- 充電器には、水やほこりがたまらないよう、ご注意ください。
- 充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください。
（充電中の熱により、ケース等が変形するおそれがあります。）
- 使用しなくても、3ヵ月に一度は充電してください。（31ページ参照）

お知らせ

- バッテリー保護の為に、満充電からの再充電はできません。
- バッテリー温度が低い場合は、充電時間が長くなります。
- リチウムイオンバッテリーは、メモリ効果がありませんので、リフレッシュ充電は不要です。
- 長くお使いいただく為に上記内容をお守りください。（31ページもあわせてお読みください。）

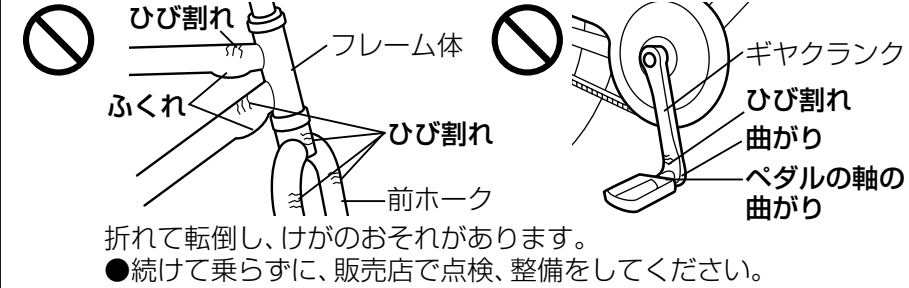
乗るまえの点検

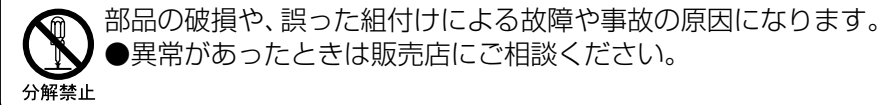
日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

安全にご乗車いただくため、乗るまえにつぎの点検、調整を実施する習慣をつけましょう。
点検、調整後は**走行テスト**をしてください。

⚠警告

■ひび割れや変形したままで走行しない

折れて転倒し、けがのおそれがあります。
●続けて乗らずに、販売店で点検、整備をしてください。

サスペンションホーク

■ボルト等を外して、分解しない

部品の破損や、誤った組付けによる故障や事故の原因になります。
●異常があったときは販売店にご相談ください。

⚠注意

■点検で異常があったときは、乗車しない

事故や転倒のおそれがあります。
●異常があったときは販売店にご相談ください。

■各部のゆるみ

●車輪の締め付け部

車輪を10 cm程度の高さから落とし、車輪などの締付部にがたつきがないこと。(前後とも)

車輪を浮かせ強くたたいても、がたつきがないこと。

●車輪の振れ

少し持ち上げ回転させ、上下左右に大きくふれないこと。

●ハンドルバー

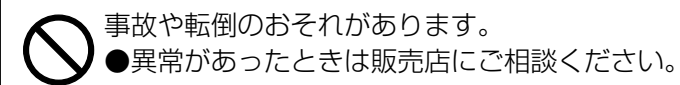
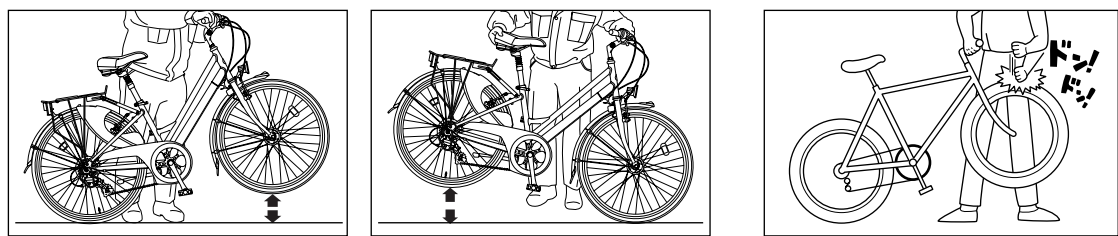
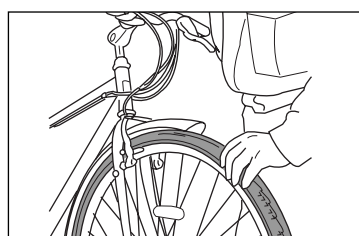
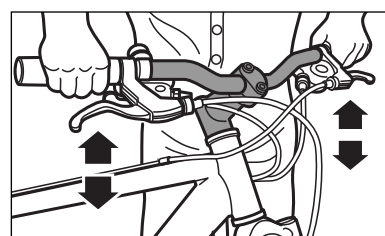
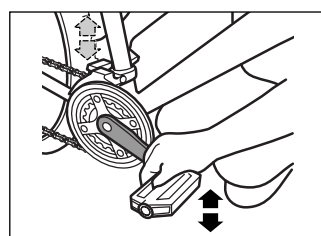
バーを手で持って、上下に強く力を加えても、動かないこと。

●ギヤクランク

左右交互に力を加えても、がたつかないこと。
スムーズに回転すること。

⚠警告

■乗るまえの点検は、必ず実施する。

●前後ブレーキの効き、作動の点検をする。
●ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検する。
●前後車輪が、確実に固定されているか点検する。
●前後タイヤの空気圧が適正か点検する
事故や転倒のおそれがあります。

リフレクタ(テールランプ)
◎割れや、汚れはないか?
◎後からの光を反射する角度になっているか?

サドル・シートポスト
◎サドルに座って、両足のつま先が、地面に着くか?
◎引上げ限界線が、見えていないか?
◎シートポストの固定は、確実か?

ベル
◎よく鳴るか?

にぎり
◎ひび割れはないか?
◎抜けないか?

ブレーキレバー〈前後とも〉
◎よく効くか?
◎ワイヤのさびやほつれはないか?
・固定は確実か?・作動は円滑か?

ハンドル・ハンドルステム
◎ハンドルの固定は、確実か?
◎ハンドルステムの引上げ限界線が、見えていないか?

発電ランプ
◎点灯するか?
◎がたつきは、ないか?

どろよけ〈前後とも〉
◎がたつきは、ないか?
◎タイヤにあたっていないか?

前ブレーキ(ブレーキシュー)
◎すりへっていないか?
◎異物は付いていないか?

スポークリフレクタ〈前後とも〉
◎割れやがたつきは、ないか?

ハブナット
◎車輪にがたつきは、ないか?

バッテリー
◎正しく取付けられているか?

ペダル・クランク
◎がたつきは、ないか?

リヤキャリヤ
◎固定は確実か?

チェーン
◎空回りしないか?
◎小石等が挟まってないか?
◎歯飛びや異音(バリバリ音等)はないか?

車輪〈前後とも〉
◎リム ………振れ、変形はないか?
◎スポーク…曲がり、折れはないか?
◎ハブ ………がたつきはないか?
◎タイヤ ……摩耗、切傷はないか?
異物は付いていないか?
空気圧は適正か? (☞19ページ)

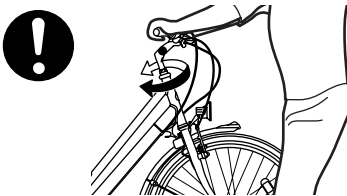
乗るまえに

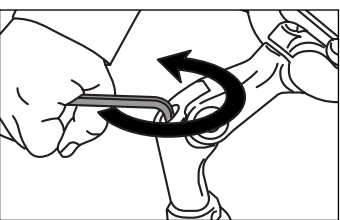
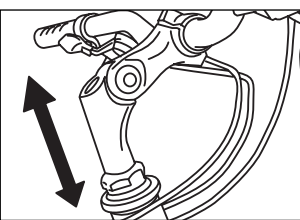
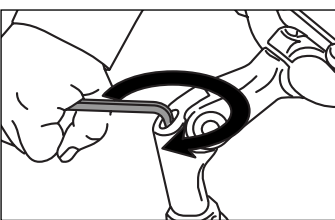
■ハンドル

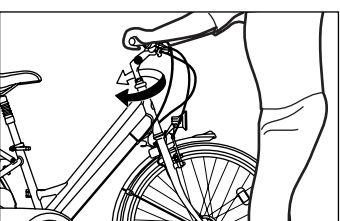
⚠警告

■引上げ限界線が見えるまで上げない

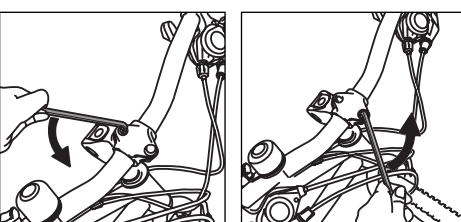
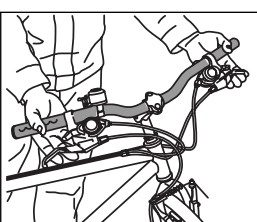
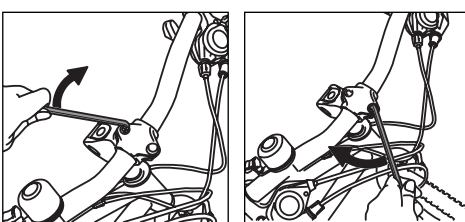
前ホークステムが折れて転倒するおそれがあります。

■調整後は必ず点検する

●ハンドルステムの高さ調整

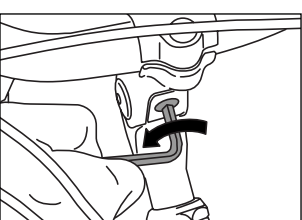
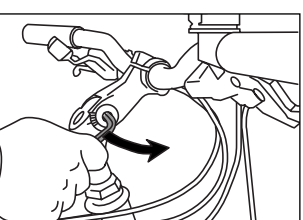
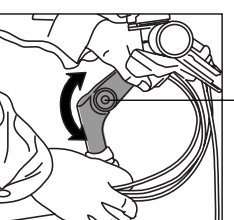
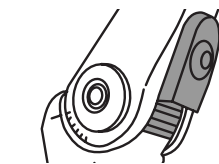
①六角棒レンチ（6 mm）で、ボルトをゆるめる。

②高さを調整する。

③六角棒レンチ（6 mm）でボルトを締める。

固定トルク：20 N·m {200 kgf/cm}

●ハンドルの点検

左右に強く力を加えても、動かないこと。

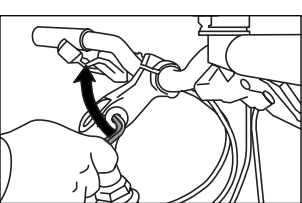
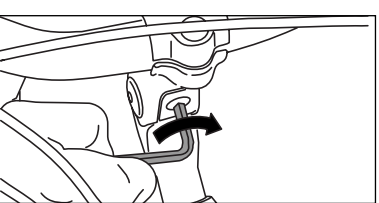
●ハンドルバーの角度調整

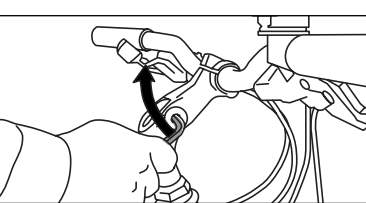
①六角棒レンチ（5 mm）で、調整ボルトをゆるめる。（2カ所とも）

②角度を調整する。

③六角棒レンチ（5 mm）で調整ボルトを締める。（2カ所とも均等に）

固定トルク：6.5～8.5 N·m {65～85 kgf/cm}

●ハンドルステムの角度調整

①ハンドルステム裏側のボルトを六角棒レンチ（5 mm）でゆるめる。

②ハンドルステム右横のボルトを六角棒レンチ（5 mm）でゆるめる。

③角度を調整する。

拡大図

『カチッ』と溝にはまる位置決めの軽い手ごたえがあります。

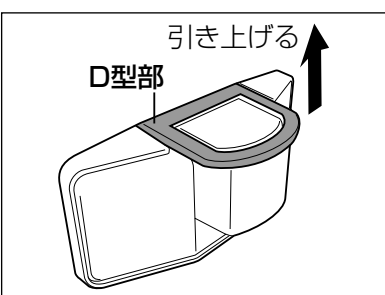
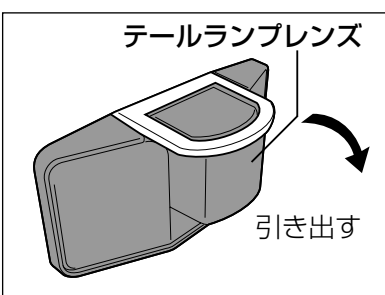
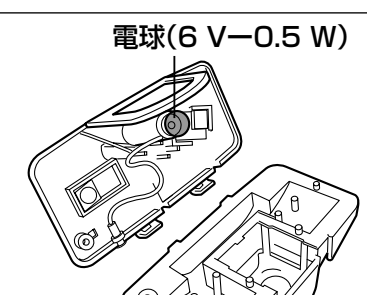
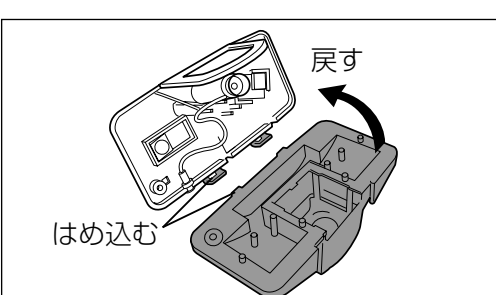
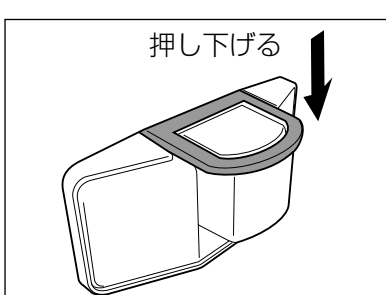
10/0/10/20/30/40/50の7段階

④ハンドルステム右横のボルトを六角棒レンチ（5 mm）で仮締めする。

⑤ハンドルステム裏側のボルトを六角棒レンチ（5 mm）で締める。

固定トルク：6.5～8.5 N·m {65～85 kgf/cm}

⑥ハンドルステム右横のボルトを六角棒レンチ（5 mm）で締める。

固定トルク：6.5～8.5 N·m {65～85 kgf/cm}

■ テールランプの取扱い

●電球の交換方法（電球は記載の種類のものをご使用ください。）

① 上部D型部を引き上げる。

② テールランプレンズを引き出す。

③ 電球を交換する。

④ 下部2ケ所の突起をはめ込みレンズを戻す。

⑤ 上部D型部を押し下げる。（「カチッ」と音がします。）

（わからないときは、販売店にご相談ください。）

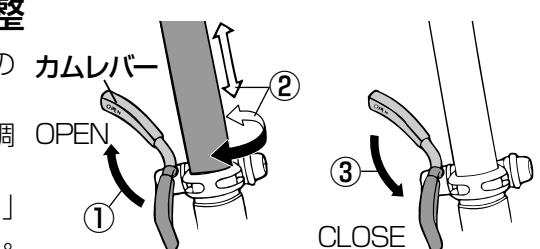
■サドル

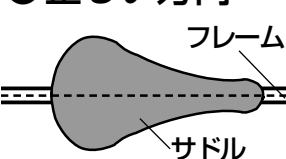
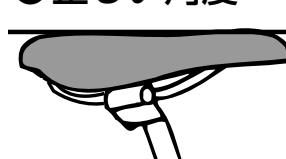
⚠警告

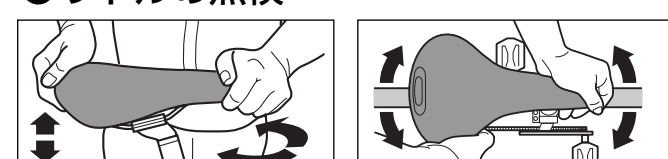
■引上げ限界線が見えるまで上げない

■カムレバーを回転させて締めつけない

■調整後は必ず点検をする

シートポストが折れたり、カム機構が動かなくなって転倒するおそれがあります。

●高さと向きの調整

①カムレバーを「OPEN」の方向に開く。
②サドルの高さ、向きを調整する。
③カムレバーを「CLOSE」の方向に閉じて固定する。

※カムレバー固定の調整は、セットナットを回転させてください。

カムレバーを「CLOSE」の方向に閉じてもサドルが固定できない時は、カムレバーを「OPEN」の方向に開いて、セットナットを締めるの方向に0.5〜1回転廻し、再度、カムレバーを「CLOSE」の方向に閉じて、サドルが固定されている事を確認ください。

●正しい方向

フレームと平行に合わせる。

●正しい角度

サドルの上面と地面を平行にする。

●サドルの点検

上下·左右交互に強い力を加え、がたつきやずれがないこと。

お願い

- **さび付きを防止するために、シートポスト（立パイプに挿入されている部分）に、薄くスプレーオイル（チェーン用）を塗ってください。**
- **角度の調整は販売店にご相談ください。**

お知らせ

- 傾いたままご使用されますと、サドル固定ボルトが折れる場合がありますので、正しく調整してください。

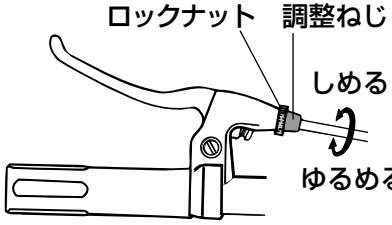
■ブレーキ

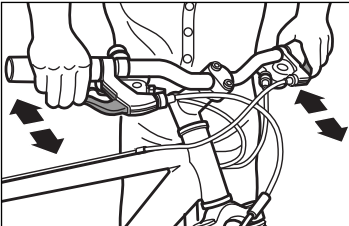
⚠警告

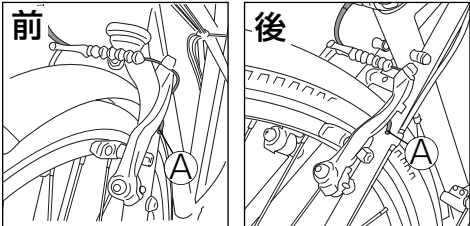
■調整後は、ロックナットを必ずもとどおり確実に締めつける

ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突の原因になります。

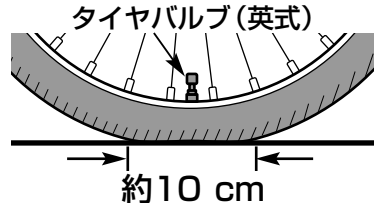
⚠注意

■ブレーキ操作の練習を充分行なう

通常の入力では、ブレーキの効きすぎによる前転倒等のおそれがあります。

- 時速10 km/h程度で、繰り返しブレーキ操作を練習し、ブレーキ特性を充分体得されてから徐々に速度を上げてください。

●ブレーキレバーの調整

ブレーキをかけてよく効かない場合には、ロックナットをゆるめて、調整ねじで調整した後、ロックナットを必ずもとどおり確実に締めつけてください。
それでも効かない場合は、販売店で調整を依頼してください。

●ブレーキレバーの点検

通常の力で引いて、レバーとにぎりの間隔が2〜3 cmあること。（前後とも）

●ブレーキワイヤ（前後とも）の点検

ワイヤが切れかかっていないこと。
ワイヤの先端Ⓐに、キャップがついていること。

■タイヤ（前後とも）

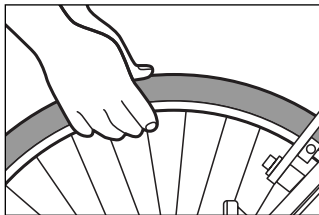
●適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約10 cm程度が、適正です。
圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。

タイヤバルブ（英式）

約10 cm

お知らせ

- 空気圧が少ないとパンクや、タイヤ、リムを損傷させる原因になります。
- 長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- タイヤバルブの型式は、英式です。

●空気の入れ方

タンク付高圧ポンプをご使用ください。
圧力計のついたポンプでは、以下の推奨内圧を目安にしてください。

〈参考〉推奨内圧

kPa表示	300〜450
(PSI表示)	43〜65
{kgf/cm²表示}	3.0〜4.5

※(PSI表示)と{kgf/cm²表示}は、参考として示したものです。

●タイヤの点検

切傷や亀裂がないこと。
摩耗していないこと。

■ 発電ランプの取扱い

⚠警告

■点灯確認のとき指を挟む恐れあり

指に注意

前車輪を回転させたとき指が巻きこまれるおそれがあります。

■走行中はスイッチを操作しない

走行中にスイッチを操作すると、自転車のコントロールを失い転倒するおそれがあります。
●スイッチの操作は、自転車を止めてから行ってください。

■ランプの取付がゆるんだまま、走行しない

スポークに巻き込まれ、転倒のおそれがあります。

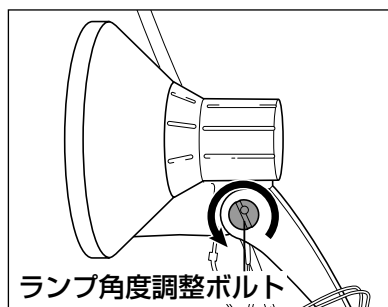
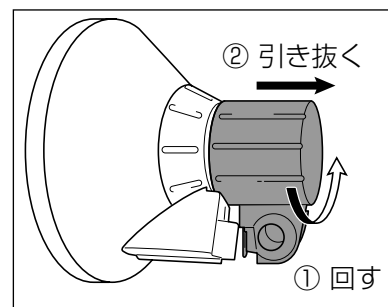
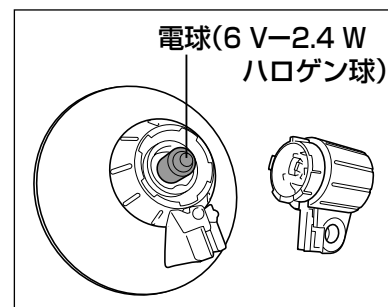
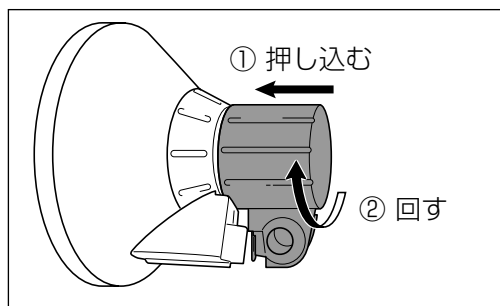
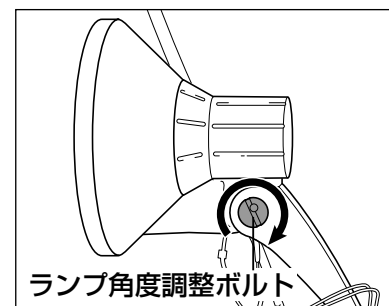
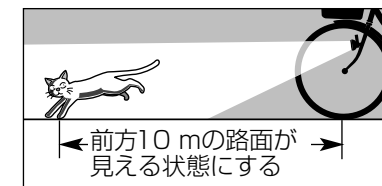
■夜間や視界の悪いときは無灯火で乗らない

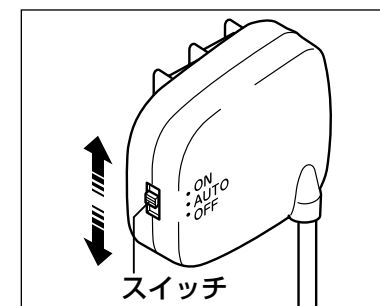
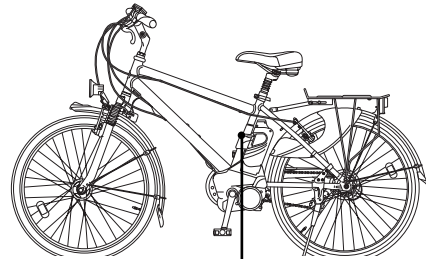
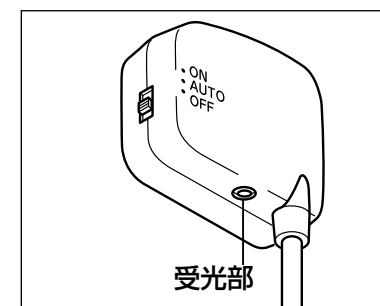
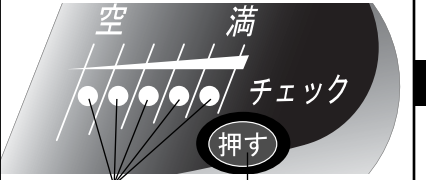
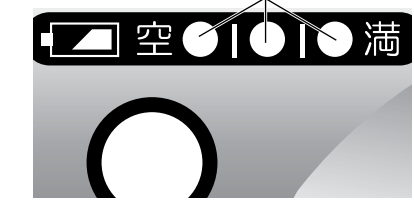
衝突や転倒のおそれがあります。
●ランプがつかないときは、押して歩いてください。

●発電ランプの特長

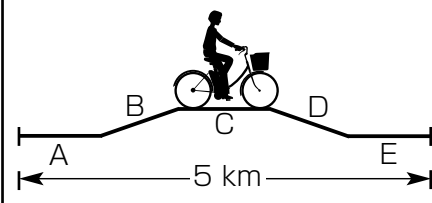
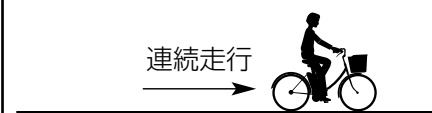
発電機が車輪に組み込まれているハブダイナモ式発電ランプです。
センサーが周囲の明るさを感知して、自動的に点灯します。(スイッチがAUTOの位置のとき)
停止すると消灯します。

●電球の交換方法(電球は記載の種類のものをご使用ください。)

①ランプ角度調整ボルトをゆるめランプを外す。

②ランプ後部を矢印方向に回し、引き抜いて外す。

③電球を交換する。

④ランプ後部とレンズ部の溝を合わせて押し込み、時計方向に止まるまで回す。(「カチッ」と音がします。)

⑤ランプを取り付け、ランプ角度調整ボルトを締める。

●照らす位置

お願い
●角度の調整は販売店にご相談ください。

●スイッチの操作方法

ON : 常にスイッチONの状態です。
AUTO : 暗くなると自動的にスイッチONの状態になります。
OFF : 常にスイッチOFFの状態です。

●点灯確認のしかた(スイッチ位置がAUTOの場合)

受光部(本体下部)に光が入らないように黒い紙等でふさいでから前車輪を回転させて、点灯することを確認する。
確認後は、受光部をふさいでいた黒い紙等を外してください。

お願い
●受光部が汚れたときは、柔らかい布でふき取ってください。
受光部が汚れていますと、センサーが誤作動を起こす場合があります。

バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの容量が、どの程度残っているか、又はどの程度充電されているかを知ることができます。
バッテリーの残量表示用ボタンを押すと、残量表示ランプが、残量を表示します。（あくまでも目安としてご使用ください。）

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100%	手元スイッチ部 残量表示ランプの表示状況
LEDランプ 5つとも点灯	約100〜80 %	LEDランプ 3つとも点灯 約100〜70 %
LEDランプ 4つ点灯	約80〜60 %	
LEDランプ 3つ点灯	約60〜40 %	LEDランプ 2つ点灯 約70〜40 %
LEDランプ 2つ点灯	約40〜20 %	LEDランプ 1つ点灯 約40〜10 %
LEDランプ 1つ点灯	約20〜10 %	
LEDランプ 1つ点滅	約10〜0 %	遅い点滅→早い点滅→消灯 約10〜0 %

お知らせ

●バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、又は、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに、残量表示ランプが点灯していても、補助力（アシスト）が働かないことがあります。
このような時は、再度充電してください。

■走行距離の目安

満充電後、バッテリーの残量が0になるまでの目安です。（当社の実験より）
走行距離の目安は、次の条件で測定しています。
- ●バッテリーは新品、気温は常温20 ℃、車載質量は60 kg（乗員および荷物を合計した質量。）
- ●発電ランプは未点灯。
- ●実際の走行時の気象、道路、車両、運転、整備、乗り方等の条件により走行距離は変化します。
- ●強モードの場合、走行距離は条件により大きく左右されます。目安として標準モードの80%〜70%程度。

※ 下記の表中の「標準」は、アシスト切替の選択状態を示しています。

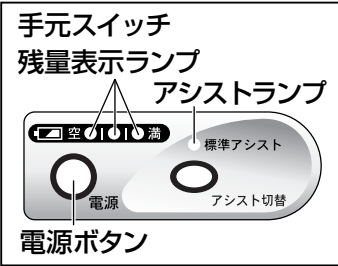
走りかた	走行距離(km) 10 20 30 40 50	走行条件
標準モード走行（業界統一テスト条件） A B C D E 5 km	38 km「標準」	Aは、平坦1 km、 変速[7] 時速15 km/h Bは、2度坂1 km、変速[5] 時速10 km/h Cは、平坦1 km、 変速[7] 時速15 km/h Dは、2度坂1 km、変速[7] 時速20 km/h Eは、平坦1 km、 変速[7] 時速15 km/h
平坦路 連続走行	50 km「標準」	時速15 km/h 、変速[7]
坂道（勾配2度） 連続走行	13 km「標準」	時速10 km/h 、変速[5]
きつい坂道（勾配4度） 連続走行	7 km「標準」	時速 7 km/h 、変速[3]

※ 上記「標準モード走行」は業界で統一のテスト条件です。

お知らせ

●冬期は、バッテリーの特性上、走行距離が短くなります。
●充電回数の増加と使用期間の経過に従い、1回の充電での走行距離がしだいに短くなります。
●走行距離は、道路状況や走り方により変化します。
（積載重量が10 kg増えた場合、通常にくらべ約10 %走行距離が短くなります。）
●ペダルが重くなる使い方ほどバッテリーは早く消耗します。
（走行距離をのばす為には、軽めの変速位置を選んでください。29ページ参照。）
●充電回数が少なくても、長期間の使用により、走行距離が短くなります。

さあ、乗りましょう！（1）

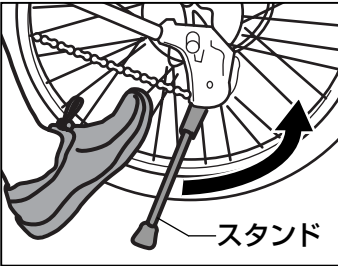
1. 手元スイッチの電源を入れる

ペダルを踏まずに、手元スイッチにある電源ボタンを押す。

残量表示ランプが全点灯し、約2秒後に現在のバッテリー残量を表示します。

残量表示ランプとアシストランプが交互に点滅する時は、ペダルに足を乗せないで電源を入れ直してください。（36ページ参照。）

オートオフシステム

● 停止して5分以上経つと、自動的に電源が切れます。
（再度走行する時は、電源を入れ直してください。）

2. スタンドを上げてサドルにまたがる

スタンドを後方へ完全に押し上げる。

3. 発進する

前後左右の安全を確認し、ペダルを踏んで発進する。
（電動補助システムが働き、作動音がします。）

⚠注意

■スタンドを立てた状態では、乗車をしない

スタンドが壊れる原因になります。
●スタンドを上げてから乗車してください。

■けんけん乗り（けり乗り）しない

転倒や接触事故のおそれがあります。
●必ずサドルにまたがって発進してください。

※**けんけん乗り（けり乗り）とは、**片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

お願い

- ●電源ボタンを押した時に手元スイッチの残量表示ランプが点灯しない場合は、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
- ●走行中は電源を入れないでください。
- ●慣れるまでは、踏み始めのアシスト力に注意してください。
- ●停車中は、両足を地面に着けるか、又は、ブレーキをかけた状態にしてください。
- ●走行中に通常と異なった音がした場合は、販売店へ相談してください。

お知らせ

●走行中は、ラジオ等に雑音が入る場合があります。

■荷物を積むとき

⚠警告

■積載条件から外れる荷物を積まない

〈リヤキャリヤ積載条件〉

- ●高さ　　：30 cmまで
- ●幅・長さ：キャリヤの幅・長さプラス10 cmまで
- ●重さ　　：15 kgまで（クラス表示 18）

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

お願い

- ● 荷物の運搬には、キャリヤ以外は使用しないでください。
- ● 容量の大きいキャリヤ及びバスケットに交換しても最大積載重量は同じです。

乗りかた

さあ、乗りましょう！（2）

■ タイヤについて

⚠注意

■タイヤの空気圧は標準空気圧（推奨内圧）にしたがう

パンクによる転倒の原因になります。

■タイヤの空気圧は標準空気圧以下は使用しない

タイヤのひび割れ、偏磨耗等パンクの原因になります。

■走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検する

パンクによる転倒の原因になります。

お願い

- ●タイヤの空気圧チェックは走行前に必ず行ってください。（19ページ参照）
  ※空気の入れ過ぎや低圧使用はタイヤの破損やパンクの原因となります。必ず標準空気圧に従ってください。
- ●ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- ●ガソリン・有機溶剤・油類のあるところに置かないでください。

■ 幼児用座席について

●この電動自転車は、幼児用座席を取付けることができません。

■ 乗車について

⚠警告

■乗車したまま段差の上り下りはしない
（車道から歩道への段差等）

スタンドが段差にひっかかり転倒したり、車体が損傷するおそれがあります。
●自転車から降りて、押してください。

■走行時、ワイヤ錠（シリンダー式）を車輪の近くやハンドルにぶら下げない

スポークに巻き込んだり、ハンドルがとられて転倒するおそれがあります。

■ 変速操作のしかた

⚠警告

■スピードをだしすぎない

標準常用速度	12～15km/h

衝突や転倒による事故の原因になります。

■変速は、一度に2段以上しない

一気に変速すると、ショックが大きく、転倒するおそれがあります。
●1段ずつ変速してください。

お願い

- **●変速操作は、よく練習してください。**
- **●シフトグリップを無理に回す変速はしないでください。**
  (変速機を傷める原因になります。)
- **●足の力を緩めてから、変速操作をしてください。**

お知らせ

- **●シフトグリップ**を操作すると、位置決めの軽い手ごたえがあり、その位置が、適正ポジションになります。

変速位置	ペダルの回転が 軽くなる	ペダルの回転が 重くなる
1	↑	↓
⋮		
7		

●ハンドルの外側に回す
1→2→3→4→5→6→7

インジケーター

シフトグリップ

●ハンドルの内側に回す
7→6→5→4→3→2→1

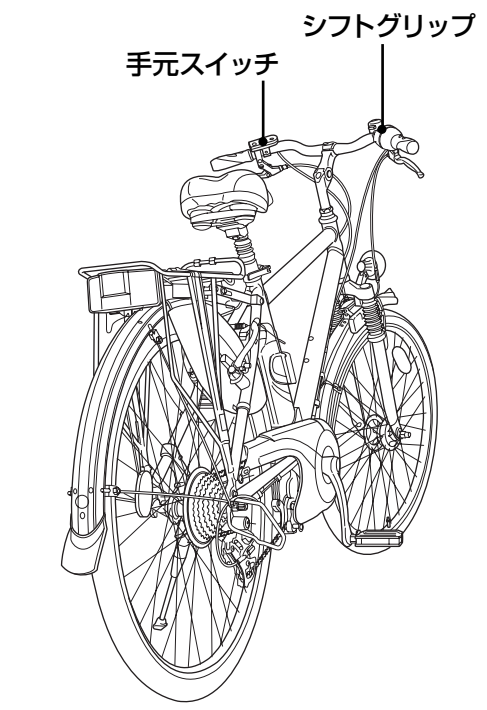
■ 手元スイッチ (アシストモードの切り替えかた)

アシスト「強」モード・「標準」モードの切り替えは、電源が入っていれば、アシスト切替ボタンを押すだけで切り替えができます。

アシストランプ	消灯 …「強」モード　標準モードより楽に走行できますが走行距離は短くなります。 点灯 …「標準」モード

アシスト切替ボタン

お知らせ

- ●電源を入れた時は、「標準」モードに設定されています。
  坂道や重い荷物を載せて走行する時は、アシスト切替ボタンを押し、「強」モード(アシストランプ消灯)にしてください。
- ●下り坂等でペダルが軽くなると、自動的にモーターが止まり、無駄な電力消費を抑えます。

■変速機の上手な使いかた

	推奨変速位置	推奨アシストモード
平地を走るとき…	3または4 の位置にあわせる。 発進するときは、1にすると楽です。	点灯 「標準」モード 発進するときは、「強」モードが楽です。
上り坂のとき…	坂の手前で… 1または2 の位置にあわせる。 きつい上り坂のときは、1にすると楽です。	消灯 「強」モードにする
下り坂のとき…	坂の手前で… 6または7 の位置にあわせる。	点灯 「標準」モード

お知らせ　走行距離をのばす為のポイント。

人にも自転車にも優しくするのがコツです。

- ●タイヤの空気圧はいつも適切にする。(19ページ参照)
- ●軽くスムーズにペダルを回し、軽めの変速位置を選ぶ。(特に発進と上り坂。)
- **●変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調等によって、最適の位置を選んでください。**

■ ブレーキのかけかた

①後ブレーキを先にかけてから
②前ブレーキをかける。

お願い

- **●急な坂道のときは、降りて押してください。**
- **●下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がですぎないように走行してください。**

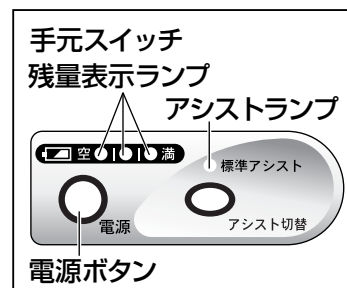
⚠警告

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

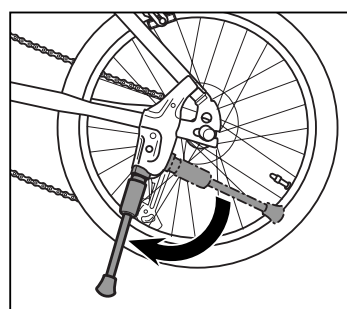
ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒するおそれがあります。

- **●下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。**
- **●急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。**

乗ったあとの駐輪

1. 手元スイッチの電源を切る

手元スイッチにある電源ボタンを押して、電源を切る。

残量表示ランプとアシストランプが消灯する。

2. スタンドを立てる

スタンドを立てる。

3. ワイヤ錠で施錠する

駐輪上のご注意

- **駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。**
- **盗難防止のため、必ず施錠して駐輪してください。**
- **車両には住所、氏名等を記入しましょう。**

バッテリーについて

バッテリー

■バッテリーの種類は、リチウムイオン電池です。

特性は、

- メモリー効果はありません。
- 冬期は、容量が低下し、走行距離が短くなります。
- バッテリー温度が低い場合、充電時間は長くなります。
- ほとんどの部品が、リサイクル可能です。

品番は、

- NKY201B02です。

■バッテリーの交換は、

- お買い求めの販売店にご相談ください。

古いバッテリーは、リサイクルのために必ずお買い求めの販売店へお渡しください。

使用済みの充電式リチウムイオン電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないでリサイクル協力店へお持ちください。

■寿命の目安

充電回数は、約500回位（標準モード走行のパターンで走行した場合）、
使用期間は、約2年間が目安です。
（走行状況や気温･充電のしかた、使用期間等で異なります）

お知らせ

- 1回の充電で、走行できる距離が著しく短くなったときが、交換の時期です。（約6 割以下）
- **バッテリー寿命の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。**

バッテリーを長くお使いいただく為のポイント。

■長期保存する場合は、

- 満充電してください。
- **周囲気温が10 ℃～30 ℃の場所で保存してください。**
- **最低3ヵ月に1回は充電してください。**

お手入れと保管

お手入れ

■日常のお手入れは、

●乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
洗車は、しないでください。
●がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。

■湿気の多い所や海岸沿いは、

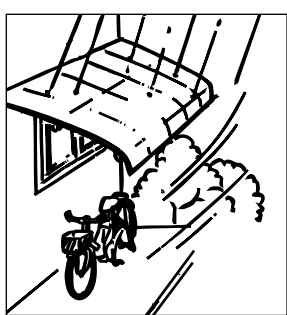
さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

お願い

●シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。（塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されます。）
●サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、すべります。）
●雨天走行後は、前リム側面のブレーキシュー接触面の砂や泥をふき取ってください。（黒く変色するのを防ぎます。）

保　管　／　廃　棄

■保管場所は、

●安定のよいところ。
●風通しがよく、湿気のないところ。
●雨つゆや直射日光が当らないところ。

■タイヤには、

空気を十分に入れてください。
（☞ 19ページ）

■長期間保管する場合は、

●ごみやほこりがつくのを防ぐため、「サイクルカバー（別売オプション）」の使用をおすすめします。
（バッテリーの保存については31ページをご覧ください。）

サイクルカバー（別売オプション）
※SAR094〜098
前後裾絞り（強力合成ゴム使用）
裾中央ナップ棒止め

■廃棄するときは、

自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

注油について

注　油

⚠警告

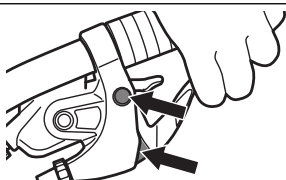
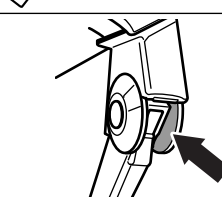
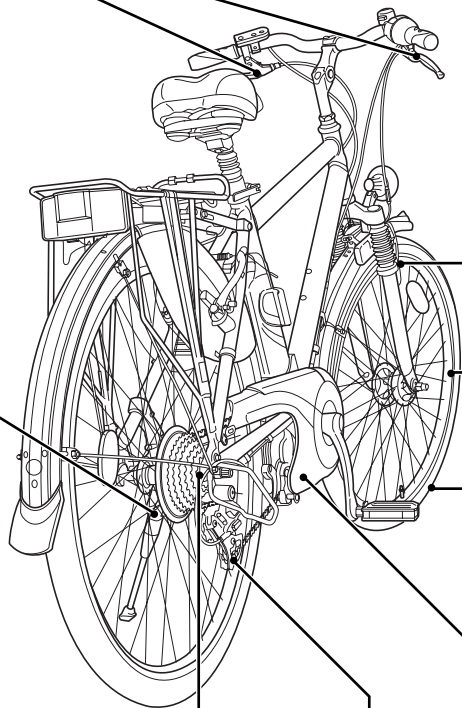
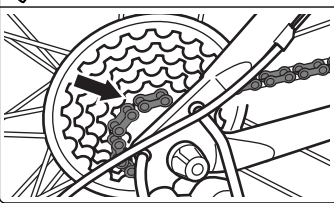
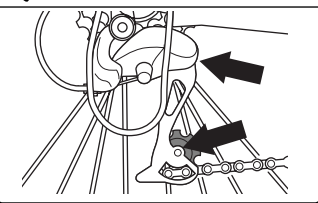
■リムやブレーキシュー（ゴム部）には、油をつけない

ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒のおそれがあります。

このマークは、**注油場所**を示します。

このマークは、**注油禁止場所**を示します。

お願い

●油の種類は、必ず、防錆潤滑剤を使用してください。
（食用油などは、硬化するおそれがあります。）
●余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

定期点検

⚠警告

■定期点検は、必ず実施する

異常や故障の発見がおくれ事故の原因になります。

■部品の交換は、次の基準で実施する

●ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても2 年に1 回は、交換する。
●タイヤは、接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換する。
●ブレーキゴムは、溝の残りが、1 mm になる前に交換する。

ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒のおそれがあります。

点検と整備は、『LYREBIRD EB』の大切な健康診断です。
いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回（2ヵ月目）点検と、6ヵ月毎の定期点検の実施をお願いします。

●初回（2ヵ月目）の点検と整備

お買い求め2ヵ月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。
必ず、お買い求めの販売店又は修理代行店で、点検・整備をお受けください。

●2回目以降（6ヵ月毎）の点検と整備

安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

愛情点検	定期点検をし、安全走行をしましょう！
	こんな症状はありませんか ●異常音がする ●がたつきやゆるみ ●車輪の振れ ●ブレーキの効きが悪い

お願い

●点検・整備は、お買い求めの販売店で行ってください。
●点検用のシートは、保証書の裏面に用意しておりますので、ご活用ください。

アフターサービスについて（修理を依頼されるとき）

●保証期間中は、 ▶ お買い求めの販売店が、保証書の規定に従って、修理させていただきます。おそれいりますが、自転車に保証書を添えて、お買い求めの販売店までお持込みください。

●保証期間が過ぎた後は、 ▶ お買い求めの販売店にご相談ください。
修理すると使用できる製品は、ご希望により修理させていただきます。

必要なとき

盗難補償について

盗難補償制度とは、「LYREBIRD EB」をお買い求めいただいたお客様を対象に、ご購入日より2年以内に盗難にあわれた場合、盗難車の希望小売価格（税込）の30パーセントと組立手数料4,200円（税込）で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記の通りです。

ご購入時、保証書のお客様欄に必要事項をご記入され、盗難補償登録カード（メーカー返送用）をご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償がうけられます。

（1）盗難補償の期間と範囲
お買い求めの日から2年間以内の自転車（別売部品等を含む装着部品の盗難は除く）かつ、盗難日より90日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

（2）盗難補償の内容
■お客様のご負担　①充電器を除く本体の希望小売価格（税込）の30%
②組立手数料　4,200円（税込）

（3）盗難補償の申込み要領
■提出書類　①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの
（警察受理ナンバー又は盗難届出証明書等）
②盗難車の保証書
③盗難車のキー（2本）
④盗難補償申込書（販売店が用意いたします。）
■申込み先　お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
追って、販売店から新車を、お渡しいたします。

（4）盗難車の所有権
盗難車が発見された場合は、その所有権は当社に帰属することを同意の上お申し込みください。

（5）盗難補償ができない場合
①（3）の書類がそろわない場合　②防犯登録がされてない場合
③補償期間が過ぎている場合　④景品などの贈呈品の場合
⑤盗難補償車が再度、盗難にあった場合　⑥盗難補償登録カードが返送されていない場合
⑦盗難車が見つかり、返ってきた場合　⑧ 無施錠で盗難された場合

お知らせ

●生産等の都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。

基準適合TSマークについて

自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。
このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。
（**工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。**（11ページ参照。））

お願い

●点検□年□月□日が記入されていない場合は、
必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、保証されないときがあります。

必要なとき

故障かな…？！

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症状		対処方法	ページ
ペダルが重い	手元スイッチのアシストランプ、残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇨ バッテリーを確実に取り付けてください。	12〜13
		●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、2・4番目のLEDが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇨ バッテリーを充電してください。	―
	手元スイッチの残量表示ランプが早い点滅をしたり、点灯しない	●充電ができていますか？ ⇨ バッテリーを充電してください。	12〜13
	手元スイッチの残量表示ランプとアシストランプが交互に１回ずつ点滅する	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇨ ペダルを踏まないで、電源ボタンを押して、電源を入れてください。	24
	手元スイッチの残量表示ランプが3回、アシストランプが1回の割合で点滅する	●走行中に発生した場合は、過負荷が考えられます。 ⇨ 電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。直らない場合は販売店にご相談ください。	24
	手元スイッチの残量表示ランプが2回、アシストランプが1回の割合で点滅する	●アシストシステムの異常です。 ⇨ 販売店に修理をご依頼ください。	―
	補助（アシスト）が切れたり入ったりする	●配線がゆるんでいたり、端子が汚れていませんか？ ⇨ 販売店にご相談ください。	―
	補助（アシスト）しない	●停止して5分以上たっていませんか？（オートオフシステム） ⇨ 電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	24
ペダルに振動を感じる		●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性ですので、故障ではありません。	―
充電できない	バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが正しく挿入されていますか？ 充電器のバッテリー挿入部がよごれていませんか？ ⇨ よごれを取り除き、バッテリーを正しく挿入してください。	12〜13
		●満充電ではありませんか？ ⇨ バッテリーの残量表示ボタンを押して、チェックしてください。満充電からの再充電はできません。一度使用してから、充電してください。	―
		●残量表示ボタンを押した時、1・3・5番目のLEDが点滅する。 ⇨ 周囲気温が10℃〜30℃の場所で、充電してください。	13
		●残量表示用ボタンを押した時、LEDが流れるように点滅する。 ⇨ 走行可能な時は、一度使用してから充電してください。販売店にご相談ください。	―

症状		対処方法	ページ
走行距離が短い	手元スイッチの残量表示ランプが短い走行で点滅を始める	●充電ができていますか？ ●長期間使用せずに、放置されていませんでしたか？ ⇨ バッテリーを充電してください。	12〜13
		●初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇨ バッテリーを充電してください。	12〜13
		●道路条件や変速位置、苛酷な走行により、走行距離が、短くなります。	23
		●冬期は、バッテリーの特性上容量の低下が大きくなります。	―
		●タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇨ 自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	19
		●ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇨ ブレーキの調整をしてください。	18〜19
バッテリーや充電器が熱くなる（発火の心配）		●充電中、充電器は多少熱くなります。 ⇨ 異常ではありません。	―
		●手で触れられないほど熱い場合は、異常です。 ⇨ ただちに使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。	―
充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない		●充電途中で電源プラグを抜きませんでしたか？ ⇨ 再度充電してください。	12〜13
		●充電器の端子が汚れていませんか？ ⇨ 乾いた布等で清掃してください。	―
		●長期間使用されたバッテリーですか？ ⇨ バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	―

おぼえのため、記入されると便利です。

販売店名	電　話（　　　）　　ー
品　番	車体番号
キー番号	防犯登録番号

仕　様

品　番		BE-EHB67
寸法	全　長	1,800 mm
	全　幅	595 mm
	サドル高	860〜993 mm
	タイヤ形状	26×1.4 HE
	軸間距離	1,115 mm
総車両質量		22.0 kg
フレーム		ダイヤモンド 型
ハンドルバー		オールランダーバー（アルミ製）
リフレクタ		リヤキャリヤに取付
スタンド		1本スタンド
補助速度範囲		24 km/h 未満
充電1回の走行距離（標準モード走行）		38 km
モーター形式		直流ブラシレスモーター
定格出力		240 W
補助力制御方式		踏力比例制御
バッテリー	品番	NKY201B02
	種類	リチウムイオン電池
	容量	26 V—3.6 Ah
	質量	1.1 kg
充電器	品番	NKJ022
	形式	スイッチング・レギュレーター式・スタンド型
	電源	AC100 V（50 Hz／60 Hz）
	充電時間	約 2.6 時間
	質量	0.7 kg
	消費電力	81 W
	待機消費電力	約 1.5 W
変速機方式		外装7段シフト
駆動方式		インラインドライブ
制動装置	前輪	V ブレーキ
	後輪	V ブレーキ
照明装置		ハブダイナモ式
施錠方式		ワイヤ錠
適応身長		160〜194 cm

●乗車適応身長は、個人差がありますので、目安としてください。
●寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
●仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
●電池寿命は、約500 回の充・放電または、約2 年が目安です。
このときの電池容量は、初期の約60 %に低下します。（保証回数・期間ではありません。）
●この車種は、乗員体重を65 kgで基本設計しています。
従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、消耗度合、劣化度合が大きくなり、また、走行距離が短くなります。

〜メモ〜